

授業科目(ナンバリング)	観光倫理(CA401)			担当教員	木村 勝彦		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
3年次までの観光学の学びにおいて修得した専門的知識を、社会人としての教養および良識と結び付けながら、観光の視点から現代社会のさまざまな倫理的問題についての理解を深めていく。そうした理解を受講生各自の観光研究と照らし合わせ、主体的に考察する能力を高めていくことが、この講義の到達目標である。							① ③
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	観光倫理およびそれに関連する学問領域の専門的な学術用語を説明することができる。				・定期試験	40%	
情報収集、分析力	現代社会における観光のさまざまな事例について情報を収集し、そこから倫理的問題性を指摘することができる。				・課題レポート	10%	
コミュニケーション力	現代観光の倫理的規範性とあるべきかたちについて、主体的な意見を提示することができる。				・受講態度 ・授業への参加度	10%	
協働・課題解決力	自らの選択した専門コースの問題に関連づけて、観光倫理の具体的な課題の解決に寄与することができる。				・定期試験	10%	
多様性理解力	文化の歴史的多様性や社会的多様性を理解し、それぞれの文化によって倫理的価値観に違いがあることを考えることができる。				・定期試験 ・課題レポート	20% 10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価は定期試験 70%、課題レポート 20%、授業態度・授業参加 10%の配分で行う。定期試験は筆記試験により行い、専門用語の的確な説明と倫理的議論の内容に関する理解度を評価基準とする。課題レポートは課題への取組み方と内容、授業態度・授業参加はレポート提出状況によって評価する。なお、フィードバックは授業の中で適宜行う。							
授業の概要							
この授業では、講義内容をまとめたプリントを毎回配布し、重要な語句や図表、関連する映像資料等をパワーポイントによって提示しながら解説する。また授業の最初には、課題レポートの解答を示し、内容に関する解説を行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：長崎国際大学国際観光学科編『観光の地平』学文社 参考書：山中弘編『宗教とツーリズム』世界思想社 指定図書：『聖地巡礼ツーリズム』弘文館							
授業外における学修及び学生に期待すること							
どのような視点から観光を学ぶにせよ、「観光倫理」は観光研究にとって重要な意味をもっているため、最高学年である受講生諸君には授業への積極的な参加が求められる。また、新聞・雑誌あるいはテレビなどのメディアを通して、国内外の観光をめぐる社会的動向について随時情報を得るように努めることを期待する。その際、この授業の内容に関わる倫理的問題として、特に宗教・文化による価値観の違いや、開発と経済格差の問題などに注目して欲しい。意欲的かつ真摯な受講態度を要求する。授業中の私語や理由のない遅刻・途中退席は許さない。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	導入	観光倫理という学問の意義について述べ、講義全体の概要について説明する。	倫理学の学術用語の整理・復習 文化史の予習
2	アプローチの仕方Ⅰ	観光倫理の関連分野として、観光に対する文化史的アプローチの研究について述べる。	文化史の学術用語と先行研究の整理・復習 思想史の予習
3	アプローチの仕方Ⅱ	観光倫理の関連分野として、観光に対する思想史的アプローチの研究について述べる。	思想史の学術用語と先行研究の整理・復習 宗教学・人類学の予習
4	アプローチの仕方Ⅲ	観光倫理の関連分野として、観光に対する宗教学的・人類学的アプローチについて述べる。	宗教学・人類学の学術用語と先行研究の整理・復習 社会学の予習
5	アプローチの仕方Ⅳ	観光倫理の関連分野として、観光に対する社会学的アプローチについて述べる。	社会学の学術用語と先行研究の整理・復習 伝統的文化の予習
6	現代観光の問題性Ⅰ	現代観光のさまざまな問題のなかから、グローバリゼーションと伝統的価値規範・伝統的文化の関係について、倫理的問題性を検討する。	伝統的文化についての整理・復習 観光文化の予習
7	現代観光の問題性Ⅱ	観光が作り出す新たな文化＝観光文化のあり方を検討することにより、観光が文化に及ぼす影響の大きさについて、倫理的問題性を検討する。	観光文化についての整理・復習 エコツーリズムの予習
8	現代観光の問題性Ⅲ	環境問題に対する配慮や「適正な規模の開発」という問題意識からクローズアップされているエコツーリズムを取り上げ、倫理的問題性を検討する。	エコツーリズムについての整理・復習 民族移動の予習
9	現代観光の問題性Ⅳ	現代社会における特徴的な動向の一つである、さまざまなレベルでの民族移動について観光の視点から取り上げ、倫理的問題性を検討する。	民族移動についての整理・復習 持続可能な観光の予習
10	観光倫理の試みⅠ	持続可能な観光(sustainable tourism)という考え方を検討しながら、観光開発をめぐる観光倫理の理論的構築を試みる。	持続可能な観光についての整理・復習 まちづくりの予習
11	観光倫理の試みⅡ	地域住民の意思と観光行政との関係、住民生活と観光産業との関係などを検討しながら、まちづくりをめぐる観光倫理の理論的構築を試みる。	まちづくりについての整理・復習 宗教的聖地の予習
12	観光倫理の試みⅢ	観光と寺院・神社・教会などの宗教的施設及び聖地との関係を検討しながら、信仰や文化保存をめぐる観光倫理の理論的構築を試みる。	宗教的聖地についての整理・復習 経済格差・差別の予習
13	観光倫理の試みⅣ	先進国と開発途上国との経済格差、人種や民族の違いに起因するさまざまな差別の問題を検討しながら、観光と差別をめぐる観光倫理の理論的構築を試みる。	経済格差・差別についての整理・復習 ダークツーリズムの予習
14	観光倫理の試みⅤ	広島・長崎・沖縄などを事例として取り上げ、人の死に関わる場所を対象とするダークツーリズム(dark tourism)をめぐる観光倫理の理論的構築を試みる。	ダークツーリズムについての整理・復習 あるべき観光の予備的検討
15	観光のあるべきかたち	講義全体の内容を振り返りながら、観光の「あるべきかたち」について展望する。	講義全体の振り返りと。観光のあるべきかたちをめぐる自己認識の省察
16	定期試験		